言葉の誤りへの敏感さと生きづらさの関係：言葉の間違いに敏感なほど生きづらいのか

薬師神秀大

はじめに

自分は、些細な言葉の間違いなどが気になってしまいつい、指摘してしまうが、自分自身は話は全然うまくないし語彙も少ない自覚がある。このように、言語に敏感なほど生きづらく、話しつらくなるのではないかと気になった。

リサーチクエスチョン：言葉の誤りに敏感な人は、話し方が下手で生きづらさを感じるかを検証する。

方法

googleformでアンケートを実施
①他人の言葉の誤用が気になるか
②他人の言葉の誤用を指摘するか
③人と話すのが好きであるか
④話すときの自分の語彙が多いか
⑤自分の話を下手だと感じることがないか
⑥生きづらいと感じることはないか
これらを１～６で評価し
言語の誤りへの敏感さを①＋②
生きづらさを　14-（③＋④＋⑤＋⑥）÷２
と定義する。

結果

結果から、言葉の誤りへの敏感さと生きづらさには0.48の正の相関が見られました（図1、図2参照）。

結論：言葉に敏感な人ほど言語能力が低く生きづらい。

表１

他人の言葉の誤用が気になる	他人の言葉の誤用を指摘する	人と話すことが	話すときの自分の語彙は	自分の話が下手だと感じることが	生きづらいと感じることは	言語へ誤りへの敏感さ	生きづらさ
4	3	2	1	2	1	7	11
2	2	4	2	2	3	4	8.5
5	4	5	3	3	2	9	7.5
6	4	2	4	4	5	10	6.5
5	4	6	3	1	1	9	8.5
5	5	6	3	2	1	10	8
4	4	5	1	1	4	8	8.5
5	4	5	3	2	2	9	8
5	1	4	4	3	4	6	6.5
2	2	4	3	4	3	4	7
4	2	5	3	4	6	6	5
6	5	6	1	1	1	11	9.5
4	5	3	2	1	5	9	8.5
5	4	5	4	5	1	9	6.5
3	1	6	4	3	4	4	5.5
6	4	3	1	1	2	10	10.5
2	3	4	3	2	3	5	8
1	1	6	3	4	4	2	5.5
2	2	3	2	1	5	4	8.5
2	1	5	3	3	4	3	6.5
1	1	6	3	3	4	2	6

図２

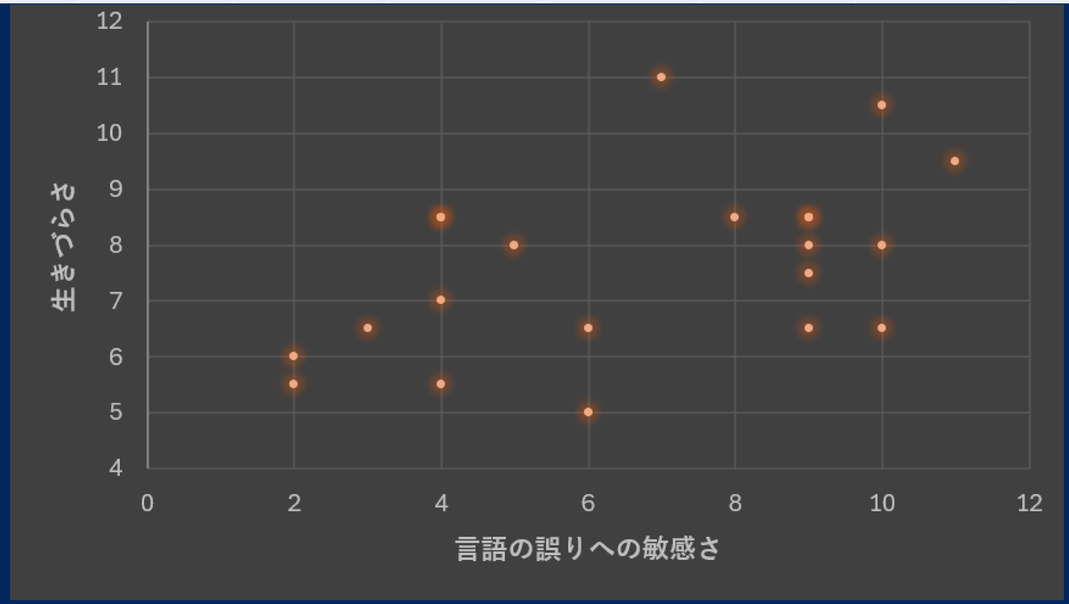

表１　各項目の値と、そこから導かれる言葉の誤りへの敏感さと、生きづらさを示している。

図２　横軸が大きくなるほど言語の誤りに敏感となり、縦軸が大きくなるほどいきづらくなっていく。

考察

言葉に敏感な人ほど生きづらいと考えられる。引用論文の中で、生きづらさの中には、他者と自分とのかかわりに起因するものがあり、そのなかで他者や周囲との関係がうまくいかないという要因があり、その中で、周囲の人とのズレを感じるということがあった。
他者の言葉の誤用に敏感ということは、他者との言語の感覚にズレがあると言え、だから生きづらさがあると考えることができる。
改善すべきところは、言語の誤りへの敏感さの項目を二つほど増やしてもよかったかと思う。また、サークルの中でデータをとったので、データの数が２１個と少なめで、もっとたくさんの人が答えてくれるコミュニティでデータ収集を行ってもよかったと感じる。

おわりに

言葉に敏感な人ほど生きづらく、言語能力が低いと考えられた。言語に敏感であると、周りの言語に対して違和感を強く感じてしまいなじめず思ったように話せない、また、言語の間違えを恐れて、豊富な語彙で話すことができないということが考えられる。

文献

https://doi.org/10.20719/japmhn.KJ00006916772
論文：　筆者:飯田　昭人、佐藤祐基、新川基紀, 川崎直樹
表題:青年期における「生きにくさ」の構造についての検討　大学生への質問紙調査によるKJ法分析の結果から
雑誌名{人間福祉研究　Human Welfare Studies}
発行年月{2008 No. 11, 159-170}.